

旧山形村役場

山形村ふるさと伝承館の記録



役場庁舎として建設され、その後、村唯一の歴史民俗資料館として利用された山形村ふるさと伝承館。昭和から平成、令和に至るまでの長い間、同じ場所で建ち続けながら時には村役場の機能を守り、時には歴史を物語る貴重な資料を展示・収蔵してきたが、老朽化のため令和2年度に取り壊された。

本冊子は、役場として、またふるさと伝承館として使われていた頃の様子等をまとめ、記録するものである。

お疲れさま「役場」そして「ふるさと伝承館」

山形村長 本庄利昭



昭和28年12月、全村民の福利増進を目指し、総工費460万円、木造2階建瓦葺床面積180坪の山形村役場庁舎が（施工＝丸大組）竣工いたしました。以来、公民館の機能も合わせ持つ行政の中心施設として昭和61年までの33年間、村政運営の舞台としての役割を果たしてきました。

1階は職員が執務を行う事務室として使われ、2階の会議室では様々な会議が開催され熱心に話し合いが行われました。また、村政の意思決定をする厳粛な場である議場では、次の様な内容の白熱した議論が繰り広げられてきました。

- ・昭和33年 水道問題から村長・村議会議員全員が辞任
- ・昭和39年 村営保育園発足
- ・昭和40年 松本市・山形村・朝日村中学校組合立鉢盛中学校開校
- ・昭和45年 第2次農業構造改善事業着手
- ・昭和46年 清水高原観光開発着手
- ・昭和48年 開村100年、清水高原に「清水荘」オープン
- ・昭和52年 山形保育園新築落成
- ・昭和55年 農業者トレーニングセンター落成
- ・昭和61年 現在の役場庁舎落成

新庁舎の完成に伴い、旧庁舎は昭和62年9月から平成31年4月までの32年間、民俗資料館として新たな役割を果たすことになります。この「ふるさと伝承館」は、文化財保護委員の皆さんを中心に村の縄文土器等の埋蔵文化財、村民の方々よりご寄贈頂いた養蚕等の農具、ランプや蓑等の生活資料を収集し、縄文時代から近現代までの村の歴史民俗資料を後世に伝承するため、保存・展示してきました。

令和3年早春、庁舎そして資料館としての役割も終わり
「ふるさと伝承館」の痕跡は、今は無い

旧庁舎 あと地に春の 風が舞う 利阿奇



山形村役場の変遷

明治7年に「山形村」が誕生して以来、山形村役場は時代を経るごとに場所や建物を移しながら歩んできた。村の誕生から現在に至るまでの役場の変遷をまとめた。



明治7年(1874年)～明治19年(1886年) 明治19年(1886年)～大正8年(1919年)頃

明治7年10月22日に大池村、小坂村、竹田村が合併し「山形村」が誕生。同年12月より下大池地区の大池小平氏宅(旧酒屋)の一部を間借りして山形村事務取扱所が設けられた。明治19年に単独の役場(戸長役場)ができるまで、個人宅を間借りした事務が続いた。新たな戸長役場は大正8年頃まで使われたとされている。

※写真は最初に事務取扱所となった大池邸。



合併御布達書

大正8年(1919年)～昭和28年(1953年)

大正8年に山形小学校前に建てられ、昭和28年まで役場として使われた庁舎。新しく役場庁舎が建設されその役目を終えると同時に下大池地区に払い下げられ、平成23年(2011年)3月まで地区公民館として利用された。

※写真は公民館として使われていた頃のもの。

昭和28年(1953年)～昭和61年(1986年)

昭和28年12月24日に落成し、昭和61年3月まで役場として使われた庁舎。建物はその後、同じ場所で歴史民俗資料館「山形村ふるさと伝承館」(昭和62年9月開館)として利用されたが、老朽化のため令和2年度に取り壊しとなり、その役目を終えた。

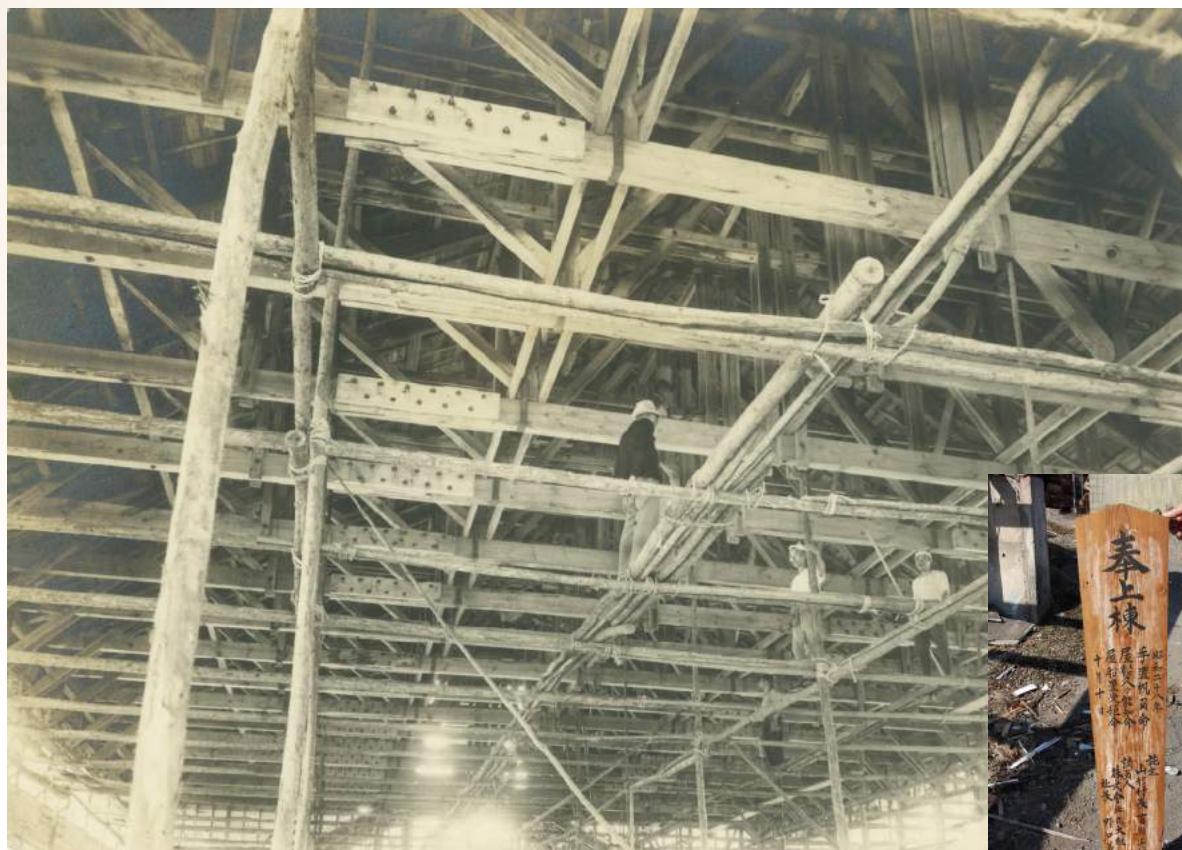
※本冊子ではこの役場を「旧山形村役場」と表記する。

昭和61年(1986年)～現在

昭和61年4月から役場として使われている現在の庁舎。村立当時から数えて4代目の役場となる(事務取扱所時代は含めず)。

旧山形村役場 から 山形村ふるさと伝承館 へ

昭和28年に竣工した「旧山形村役場」。今から68年前に完成した新しい庁舎は、昭和61年まで33年間様々な住民サービスを担う場所として多くの村民に利用された。



昭和28年 建設工事の様子



令和3年2月 庁舎解体工事中に発見された棟札



昭和29年1月発行「館報やまがた」より抜粋

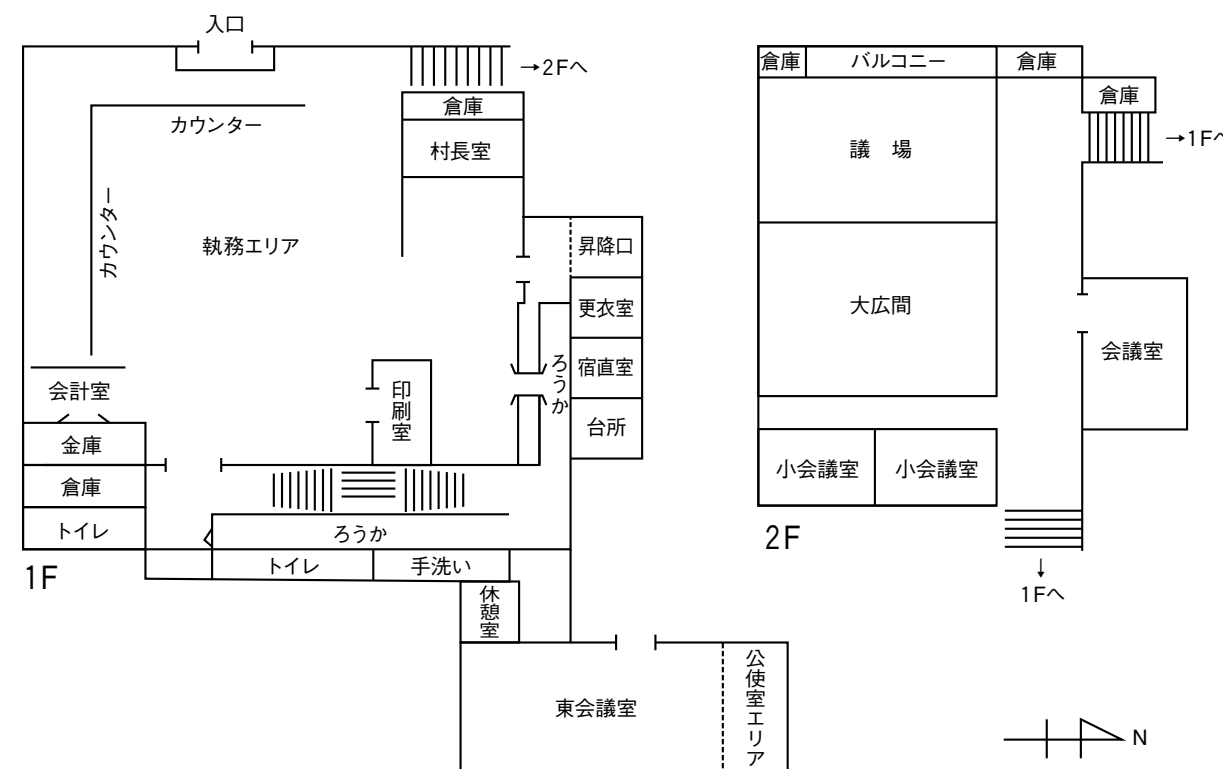
旧山形村役場は、昭和28年9月1日に工事が開始され、同年12月24日には落成式が行われたと記録されている。総工費460万円、請負業者は丸大組で、延坪180坪（約594㎡）の木造瓦葺2階建の建築であった。村の歴史をまとめた『村誌やまがた』には、「当時の町村役場としては近隣にない立派なものであった」と表現されている。また、落成式の様子を伝える「館報やまがた」の記事（左）には、工事の際に旧庁舎の一部が残され、公使室を始め公民館図書室等があったことも記されており、それまで使われていた旧庁舎の一部を再利用したことがわかる。この旧庁舎は、その後下大池地区に払い下げられ地区公民館として平成23年まで利用された。



2階議場での議会



執務中の職員



1階カウンターを利用した投票所

旧山形村役場が役場として使われていた頃、庁舎の中では住民票の発行等といった一般業務のほか、議会が開催されたり、村長や村議会議員の選挙等も行われていた。写真はいずれも当時のもので、議場として使われていた2階での議会の様子や、1階カウンターを利用した投票の様子等を写したもの。在りし日の活気あふれる役場の様子が伝わる。

旧山形村役場 から 山形村ふるさと伝承館 へ

役場の機能が現在の庁舎へと移行した昭和61年の翌年、旧山形村役場を利用して「山形村ふるさと伝承館」が開館した。それまで本格的な資料館を持っていなかった山形村に誕生した、待望の歴史民俗資料館である。



伝承館
テープカット



上：昭和62年9月発行「広報やまがた」より転載
下：昭和62年7月発行「館報やまがた」より抜粋

旧山形村役場の跡地利用として歴史民俗資料館の設置が決まり、「山形村民俗資料館建設実行委員会」が昭和62年（1987年）5月1日発足。同年7月に展示整備が着工され、8月には展示が完成。「ふるさと伝承館」と命名される。同年9月に開館して以来、村で唯一の歴史民俗資料館として村内外からの来館者を迎えてきたが、平成31年（2019年）4月末日をもって老朽化のため閉館。平成の終わりとともにその役目を終えた。

ふるさと伝承館ができる以前、昭和45年（1970年）頃より村内の民俗資料の収集・保存がされていたが、ふるさと伝承館の開館に合わせて資料の寄贈を募ったところ、多くの村民から貴重な資料が寄せられた。取り壊しによって展示施設を失ったふるさと伝承館だが、これまでに収集した約14,000点の充実した所蔵資料は、仮の収蔵庫のなかで大切に保存され次の出番を待っている。



1階展示（民俗資料）



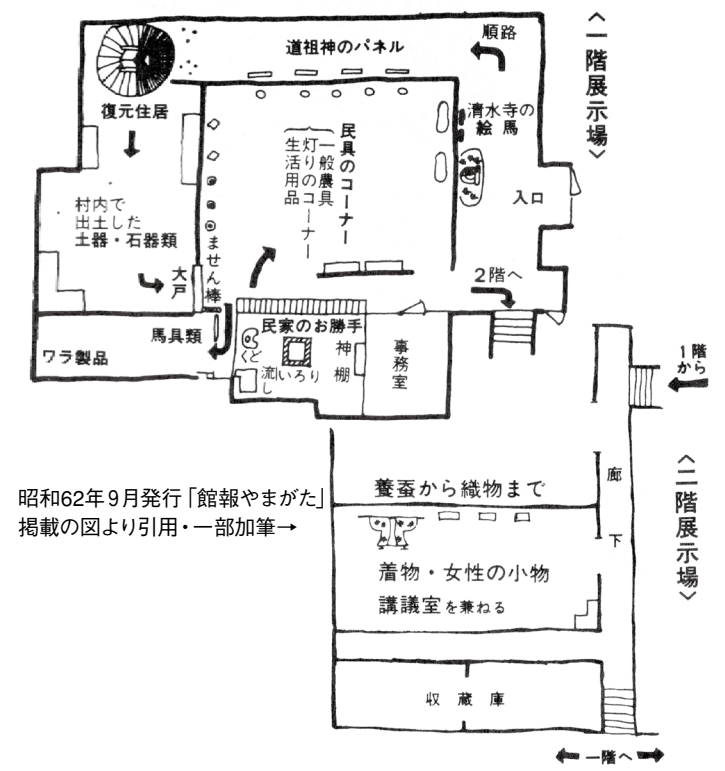
2階展示（養蚕資料）



竪穴式住居の復元
（殿村遺跡・第3号住居跡に基づいて復元）



民家の復元
（籠田等氏による大正時代初期頃の民家・お勝手の復元）



1階展示（考古資料）

ふるさと伝承館では、村内の遺跡から出土した土器・石器といった考古資料や、日々の暮らしの中で使われていた生活資料、農具、養蚕の道具等多彩な資料を展示。昭和62年の開館時には縄文時代の住居や大正時代の民家の復元等多くの展示が手作りで作られ、ぬくもりの感じられる資料館であった。一般の来館者のほか、村の歴史を学ぶ山形小学校の授業利用についても受け入れており、村の社会教育の一翼を担った施設といえる。



昭和28年から68年間、同じ場所で長い時を刻みながら
山形村の歩みを見守り続けた旧山形村役場・山形村ふるさと伝承館。
令和2年度、惜しまれながら取り壊しとなった。
まっさらになった“山形村3866番地”は、
どのように生まれ変わるだろうか。

発行日 令和3年3月31日
発 行 山形村教育委員会
長野県東筑摩郡山形村2040-1
電話 0263-98-3155
印 刷 カシヨ株式会社